

High ♥ Line Wakabayashi はいらいん若林

みんなでここさ

いらいん!

若林区まちづくり協議会会報

2014.3.1

Vol.17



▲「丁切根跡」の説明板

河原町一丁目商店街の途中から広瀬橋に向かって旧奥州街道を南下した所に「丁切根跡」の説明板があります。さほど目立たないので見逃しがちですが、一度足を止めて目を通すと、辺りはたちまち藩政時代にタイムスリップ。ここを通過して江戸に向かった参勤交代行列のにぎわいや、城下への出入りを管理した町木戸(門)の開閉の音までが聞こえてくるようで不思議です。この町木戸を「丁切」、丁切近くの家を「丁切根」と呼び、丁切が城下と城下外の境の要所に置かれたことから、河原町が当時、仙台城南端の表の玄関口として大きな役割を担っていたことがわかります。

丁切から一歩外へ出ると、もうそこは城下外。丁切根跡にしばしたたずみ、ここを歩き交った古の旅人たちに思いを馳せてみました。

若林区探訪
その四

商業の中核を担った由緒ある町

昔、広瀬川の氾濫によって自然にできた河原地帯に発達したといわれる町、河原町。仙台城下のはずれにあって農村に近いという地の利を背景に、大きな発展をとげました。

河原町

仙台城南端の玄関口 丁切根跡

三百余年も続いた 青物市場

以前の河原町を知る人は、かつてここに青物市場があったことを懐かしく思い出すことでしょう。現在の中央卸売市場が、宮城野原から卸町へと移転を重ねる前は、ここ河原町に、江戸時代から三百余年も続いた青物市場の歴史がありました。

仙台城下への街道が集まる玄関口の河原町が、城外の農漁村にも近かったことから、井土浜街道や閑上街道を通過して新鮮な野菜や魚介類が毎日ここに運ばれて売買され、やがて市ができました。さらに、人が住みついて店ができ、大商人が輩出して土蔵造りの大店が立ち並ぶ商人町となったのです。

昭和初期には青物市場の他に五十もの業種の店があったとのこと、当時のにぎわいが想像されます。現在の消防署付近の市場跡にもう面影はありませんが、新たなコミュニティ道路が河原町の歴史を優しく包んでいました。

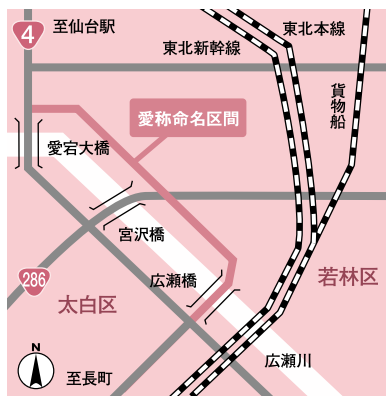
旧国道に愛称誕生

「昭和市電通り」

河原町を通る旧国道4号線の愛称が「昭和市電通り」に決定。これは、地域への愛着

を願って、地元の諸団体に組織した実行委員会が公募し、選考を経て市が決定したものです。

昨年10月に命名を祝う記念パレードと式典が催されました。パレードには、荒町小学校と南材木町小学校の両方向からツインタワー前広場まで、約二百名の地域の方や子どもたちが参加しました。広場では、除幕式の後に両校児童による祝賀演奏が行われ、その後、場所を移して、記念式典・祝賀会が奥山市長出席のもとに執り行われました。愛称の誕生で河原町の懐かしさ、思い出がよみがえることでしょう。なお、プレートは沿道に8か所設置してありますので、ぜひご覧ください。



▲「昭和市電通り」略図

参考文献 「仙台地名考」「仙台まち歩き」
「広瀬川と町 わが南材」

(菅井・志子田 記)

会報の愛称 「はいらいん若林」とは

仙台弁の「いらいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路などの意)とをかさねあわせた造語です。温かさとより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

はじめの 一歩

なにをしよう?とにかくやってみよう!

まずは歩いてみよう!

全員が初対面、与えられたテーマは「若林区をみんなに愛されるまちにしよう」だけ。「いったい何をすればいいの?」「とにかく、なにかやってみなくちゃ!」目標が定まらないまま、必死で走り続けた10カ月。(平成24年11月～平成25年8月)



東西線は外せないよね!

近い将来若林区を走る地下鉄東西線のことも知りたい、ということで、薬師堂工区を見学しました。

地元のまちづくりに参加してみよう!

出店の条件がたくさんあって大変でしたが、企画した3つのコーナーはどれも子どもたちに喜んでくれました!

荒町で行われる毘沙門天王祭の実行委員会から、出店のお誘いがありました。「おまつりに来る子どもたちが減っている」という実行委員会の悩みを受け、子どもが楽しめるコーナー(スライム、ゲームいろいろ、ストラックアウト)を企画しました。

平成26年度 若林区まちづくり協議会の行事予定

4・5月 役員会・総会 	7月 若林区 合唱のつどい 	8~11月 若林区 スポ・レク・フェスタ
10月 若林区民ふるさとまつり 	3月 「はいらいん若林」 Vol.18発行 	7月～翌3月 「ラジオはいらいん若林」放送 76.2MHz ラジオ3にて毎週土曜日 午前10時から

※詳しくは「市政だより」「若林区ホームページ」等でご案内いたします。 ※実施内容・時期については変更となる場合があります。

つぼみ、ふくらむ わかばやし倶楽部活動中!

若林区まちづくり協議会では、若い世代の人材育成事業として平成24年11月から「わかばやし倶楽部」をスタートさせました。公募により集まったメンバーは現在13人。活動を通してまちづくりの力を身に付けてもらうため、企画から運営まですべてを自分たちで行うという方式を採用しています。毎月2回、仕事や学校を終えた夜に集まり、試行錯誤を繰り返しながら活動しています。そのメンバーから、1年間の活動リポートが届きました。



イメージキャラクター「めぶっさー」。メンバーがデザインしました。

STOP!

一息こころよ 私たちが本当にやりたいことってなんだろう?



ここまで19回のミーティングと3つの活動を重ねてきましたが、一人一人のやりたいことが分散しているらしく、いまひとつ気持ちがまとまりませんでした。このまま惰性で続けないために、一旦立ち止まって周りを見渡す機会を作りました。(平成25年10月)

ここまで活動を続けてきたからこそ言える事をシンプルに一言ずつ書き出してもらったら、文章で表現できないような繊細な言葉や気持ちがたくさん出てきました。



本当に目的に向かって進んでいるのかなあ?

1年走り続けたからこそ見えた やりたいのはコレだ!

出てきた言葉をKJ法(※)でまとめたところ、向かうべき方向性は一致していて、そこに至る気持ちが一人一人異なっていたということがわかりました。

見えてきた方向性はこの3つ。どれだけ悩んでも、大勢の人数が参加する場合の答えは最大公約数的な内容になるようです。



コミュニケーション (メンバー間のつながりづくり)

あそぶ・スポーツ・食べる...いろいろな「欲求」が挙げられましたが、行き着く先は「コミュニケーション」。これまでの活動ではミーティングが中心だったので、コミュニケーションが不足していたようです。

情報発信 (到達点の設定)

フリーペーパーとしての情報発信に重きを置いています。どのような形になるかは今のところ未知数ですが、参加者のアイデアの結晶となりそうです。

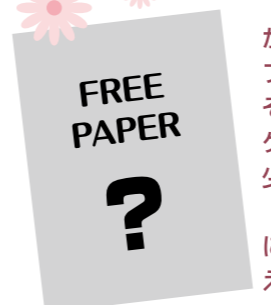
情報収集 (継続していく活動)

まち歩きなどの、自分で歩くことで発見する情報に重きを置いています。また、それ以外にも有識者から話を聞きたいという内容もあります。

※KJ法とは...雑多な情報を整理するための手法。ポストイットなどの小さい紙に情報をまとめて、全体像を把握するために使う。雑多に書き込んだ情報が整理され、タイトルがつけられることで、方向性が見えてくる。

そして、これから

1年がかりでようやく見つけた方向性。みんなが楽しみながら目標を達成できる活動として、フリーペーパーをつくることになりました。それぞれの得意分野を活かし、情報収集やコミュニケーションのための企画などを分担しながら、少しずつ活動を始めています。一人一人の「やりたいこと」を大切に温め、本当に温まっているかを確認しながら、開花の時を迎えられるように、これからも頑張っていきます!



事務局からひとこと

つまづきながら駆け抜けた1年間。13人のメンバーに事務局からサポートで2人が加わり、進めてまいりました。10代から40代と幅広い年齢層、お互いに初対面、しばらくはぎこちない雰囲気が続きました。まちづくり協議会の思いは、若い世代に若林区を知ってもらい、まちづくりに声を出し行動を起こしてもらうこと。時間はかかっていますが、疑問を持ちながらも、前に進み、声を出し始めています。まだまだと思うところも多いけれど、つぼみから花として咲くまで、やさしく見守っていきたくと思っています。

人材育成部門長 佐々木峯子

地域のイベント紹介

荒浜 だいすきー

PTA行事で運動不足解消

10月14日(月)体育の日、七郷市民センターで荒浜小学校PTA行事が行われました。

荒浜小学校は、東日本大震災の津波で、東宮城野小学校の校舎を借り授業を行っています。学校周辺も災害危険区域に指定され、住民はいくつかの仮設住宅やアパートに移り離れて暮らすようになりました。小学生は、スクールバスでの登下校のため、以前のように思うように遊ぶことができません。

このような子供たちの日頃の運動不足の解消とお母さんたちの親睦を深めるための取組が、六郷・七郷コミュニティや学生ボランティア(東北学院大、宮城教育大)、七郷市民センターなどの協力で実現となりました。

9時30分開会、川村校長の挨拶、学生指導のゲームを交えた準備体操で心も体もリフレッシュし、ストラックアウトとドッジビーの試合に入りました。試合は子供対学生で戦い、みんな汗を流しながら思いっきり走り、同点2回の引分けで終わりました。

この間、お母さんたちは別室でクリスマス飾りを作りながら、久しぶりのおしゃべりを楽しみました。

試合後の記念撮影、かけ声は「荒浜だいすきー」、いい笑顔の一枚でした。お昼は、みんなで「トマト鍋」、「じゃがいもホイイル焼き」を味わい、大勢のにぎやかな食事会となりました。

「今日のように、子供たちは広い場所で遊ぶことがなかなかできないので良かったです。お母さんたちもゆっくりにできました。これからもこのような機会を作りたいものです」と小島PTA会長は話していました。(本多 記)



「新寺こみち市」がオープン



「いらっしゃいませ」。「いかがですか」。

「あら、おいしい」。「どうやって作ったの?」手作りの食品・雑貨・小物をとおして話がはずみます。

毎月の28日、10時から15時まで、新寺小路緑道を会場に「新寺こみち市」が開催されます。新寺小路緑道とは、新寺二丁目蓮池公園から新寺五丁目公園までの東西630メートルの遊歩道のことです。イベント仕掛人は、「薬師堂手づくり市」の実行委員長も務める佐藤正記さん、郷土史家・西大立目祥子さん。新寺地区の活性化を目指し、既存の新寺小路緑道を利用して「自家製手作り作家」としての小さな商いを応援するために、月毎にテーマを決めて実施しています。昨年7月にオープンしました。9月から会場にヤギも登場し、子どもたちもとても喜んでいました。

売り手(作り手)買い手の顔が見え、安心して買い物できる「新寺こみち市」。皆さんも出かけてみてはいかがですか?(引地 記)

若林区まちづくり協議会

..... 事務局

若林区役所まちづくり推進課内
〒984-8601 若林区保春院前丁3-1
TEL 282-1111

会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝又久雄
西條芳郎
菅井てるみ
本多やゑ子
引地よし
志子田喜恵

編集後記

会報プロジェクトメンバーの方々には意欲的な取材と丁寧な編集をいただきありがとうございます。復興公営住宅への入居も今春から始まり、平成27年開業に向けて地下鉄東西線の工事も急ピッチで進められています。昔ながらの街並みが残り、自然に囲まれ季節の移り変わりがはっきりわかるこの若林区において、復旧と復興のバランスを保ちながら新たなまちづくりが進行中です。この会報を1人でも多くの方々に読んでいただき、皆様の「まち協」活動へのご理解をお願いするとともに積極的なご参加をお待ちしております。
(まちづくり協議会事務局 伊藤 記)